

⑤8 ペットボトル栽培に挑戦

手軽にベビーリーフ収穫

1月は日照時間が短く、外気温や地温が低いため、露地では野菜の生育に時間がかかり、栽培できるものも限られます。ペットボトルや牛乳パックなどを活用して、手軽に葉物野菜の栽培にチャレンジしてみましょ。1月から3月上旬頃は、暖かい室内で、3月中旬以降は室内や室外で栽培できます。

1. 品目

コマツナやミズナ、サントウサイ、ルッコラ、チンゲンサイ、リーフレタスなど短い草丈でも食べられる品目が向いています。これらの葉物野菜をベビーリーフ（野菜の幼葉の総称）として収穫します。

2. 容器の準備

1㍓サイズ（25×7×7㍓）の角形のペットボトルを準備します。それを横に置き上面をカッターなどで、外周の1㍓幅で切り取ります。注ぎ口はキャップを閉めた状態で、側面に排水用の直径5㍓程度の穴を2㍓間隔で10カ所ほどあけます。灌水後の排水を受ける容器（肉魚など食品用のプラスチックトレイなど）を準備します。

3. 播種

市販の培養土約1㍓に化成肥料（成分8・8・8）2㍓を混ぜ容器に入れます。種まき前に灌水しておきます。種まきは、株間1㍓間隔でまき、軽く土をかぶせます。播種後はたっぷり水をかけます。別にペットボトルを用意し、フタの下の位置で9カ所小さい穴をあけたものを使ってかけると便利です。

4. 間引き、追肥

子葉がでたら株間2㍓になるよう間引きます。2回目以降の間引きは、込み合った所を随時間引き獲します。最終的に4株残します。追肥は、500倍に希釈した液肥を2週間に1回散布します。

5. 管理

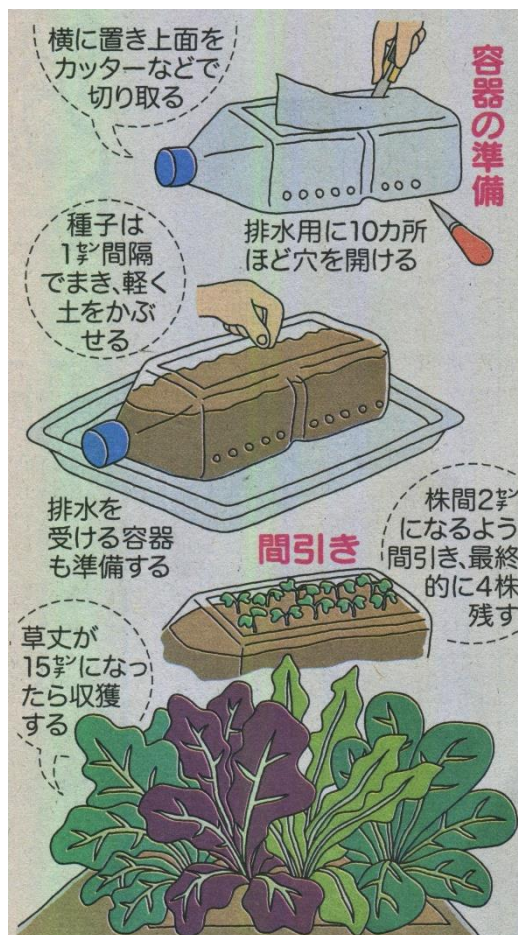
日当たりが良いと生育が促進されるので、日当たりの良い暖かい場所に置きます。土の表面が乾燥したら灌水します。

6. 害虫

基本的に室内では特に心配はいりません。室外では、コマツナなどアブラナ科野菜は害虫が多くつきやすいです。コナガやアオムシを見つけたら捕殺します。

7. 収穫

草丈が15㍓程度になったら株元からハサミで切り収穫します。



（鹿児島市都市農業センター）